

牛久：学校周辺に見る自然

第8号 ひたち野うしく小

2012年5月16日発行

＜ 植物のすがた（春） ～3年生とフェンス沿いを歩く ＞

4/24に3年1,3,4組と、5/1に2組と、学校裏のフェンス沿いの植物を観察しました。



下の写真は、葉をもむとキュウリのようなにおいがあるので、**キュウリグサ**。とても小さな花がたくさんついていますが、近よって、虫めがねでよく観察すると、ワスレナグサと同じムラサキ科の仲間であることが分かります。肉眼では分かりにくくても、虫めがねを使うと分かることが、たくさんあります。

ただ今、観察中。スケッチは、持ちようたらえて描けたかな？



↑ ワスレナグサに似た、かわいい花を咲かせるキュウリグサ。パッと見てもよく分からないが（左）、近よって、虫めがねでじっと見ると、小さな花がたくさんついていることや、花のつくりなどが分かる（右）。



次は、おなじみの**オオイヌノフグリ**（左）と、よく似た**タチイヌノフグリ**（右）。

花のつくりはそっくりですが、大きさがまるで違います。何組のときだったか、左の写真のように、2種類が並んで咲いているのを見つけてくれたお友だちがいました。おかげで、とても分かりやすかったと思います。

オオイヌノフグリ（左）と**タチイヌノフグリ**（右）。花のつくりは同じだが、大きさはぜんぜん違う。



花が赤紫で目だつカラスノエンドウ(左)と、白い小さな花が集まってかたまりをつくるシロツメクサ(右)。どちらもマメ科の仲間で、花が終わると「豆」ができる。

赤紫の花で目だつカラスノエンドウ(左)や、ちょうど咲き始めたシロツメクサ(右)を観察しているお友だちも多かったですね。一見、まったく違う仲間のように見えたようですが、一つの花をくらべてみると、花のつくりが同じであることに気がつきます(シロツメクサは、タンポポのようにたくさんのお花が集まって、一つのかたまりをつくっている)。じ〜っと、目をこらして観察してみましょう。どちらも「マメ科」とよばれるグループの植物で、花が終わると「豆」ができます。



あまり、目だちませんが、こんな花を見つけてくれたお友だちもいました。

左は、**ヤエムグラ**。葉が一か所から束になって出ていますね。花弁は何枚でしょう？茎には逆向きの小さなトゲがたくさんあって、服にもよくくっつきます。果実にもカギ形のトゲのような毛がたくさんあり、動物の体にひっついて運ばれます。こんなにも小さな花を、よく見つけましたね。

右は、イネ科の**カモガヤ**。穂が伸び始めたところでした。

↑ ヤエムグラ(左：アカネ科)とカモガヤ(右：イネ科)。目だたないが、花を咲かせ、果実を実らせる。



最後に、**スギナ**(つくし)。種子ではなく孢子を飛ばす、シダ植物の仲間です(22年度第3号参考)。早春につくしが伸びて孢子を飛ばすと、しばらくして緑のスギナが伸びてきます。スギナとつくしは仲良し？いえいえ、土を掘って地下部を観察すると、つながっていることが分かります。そう、つくしは孢子を飛ばして仲間を増やす体、スギナは自分を生長させる栄養をつくる体だったのです。右の写真のように、はかまのないつくしを見つけてくれたお友だちもいました。不思議ですね。



【理科支援員：宮内】

↑ つくしとスギナ(左)。じつは地下でつながっている(右) はかまのないつくしも見つけてくれました。↑